

2019年度審判講習会

2020年2月23日

於：国立スポーツ科学センター



(公社) 日本ライフル射撃協会
競技運営委員会

本日の内容

1. MIXルールの改定について
2. ワンタイムオンリー検査と試合前用具検査
3. ルールブックの修正について
4. 審判員の評価について
5. その他
 - ・ 競技会報告書について（再確認）
 - ・ ルールの理解について（クイズ形式）
 - ・ レーザー墨出し器について（レンタルします）

MIXルールの改定について

MI Xルールの変更点

- ・本選ステージは2つのパートから成る
- ・第1パートでは、チームメンバーあたり30発（合計60発）を30分で撃ち、8チームが第2パートに進む
- ・第2パートでは、チームメンバーあたり20発（合計40発）を20分で撃ち、4位までがファイナル（メダルマッチ）ステージに進む
- ・ファイナルステージでは、ブロンズメダルマッチ（3位と4位）が先に行われる
1発ずつ撃ち（射撃順は問わない）、チーム合計が高いほうが2ポイントを獲得する
同点の場合は、各チームに1ポイントが与えられる
先に16ポイントに到達したチームが勝利チームとなる
- ・つづいてゴールド/シルバーメダルマッチが行われる
ブロンズメダルマッチと同様に16ポイント獲得チームが優勝となる
- ・メダルマッチでは各チーム1回の「タイムアウト」が認められる

ワンタイムオンリー検査と試合前用具検査

競技規則集第2巻

1 4 9 ページ

6.7.6.2 用具検査手順

- e)用具検査係は全ての射撃ジャケットと射撃ズボンを、選手に登録されたタグを調べ、確認しなければならない。

3 0 1 ページ

- 7.5.1.2 (前文略) すべての射撃ジャケットおよび射撃ズボンは、ISSF用具検査によって発行され、ISSFデータベースに登録されたシリアルナンバーを示すタグがなければならない。タグのないジャケットやズボンは、タグを付け、ISSFデータベースに登録するために、選手によって用具検査室に持ち込まなければならない。(中略) 登録したジャケットやズボンを変更したい選手は、新たな用具にタグを付け、以前の用具のタグを外すために、用具検査室にそれらの用具を運び込まなければならない。



ISSFタグ



NRAJタグ

ワнтаイムオンリー検査に合格した
ジャケット・ズボンに写真のタグを取り付ける

選手には、ワнтаイムオンリー検査合格証を発行

ISSF Equipment Control Certificate

Competition : ISSF World Cup Final New Delhi (IND)
 Date : 23-30.10.2017
 Chief of Equipment Control : Gabriele Hartmann (GER)

Participant data
 ISSF ID : SHJPNW1811199001
 Name (Nation) : SHIMZU, Ayano (JPN)

Clothes	make	color	serial
Jacket 1	Marksman	black	7691
Trousers 1	Marksman	black	7692

Rifles	type	make	serial
Rifle 1	10 m Air Rifle	Felnerwerkbau	710016
Rifle 2	50 m Rifle Women	Anschuetz	3147333

It is the shooter's responsibility to ensure that all items used are in accordance with the ISSF Rules. Follow up controls may be conducted for all items.

23.10.2017 *G. Hartmann*
 Date / Signature of Equipment Control Officer



ISSFの黄色いカード

NRAJの青色カード



National Rifle Association of JAPAN

Equipment Control Certificate
 This Certificate that your Equipment complied with ISSF Rules on date(s) stated.

Competition : 第2回ライフル・ビートルNT選考記録会
 Date(s) : 8th - 9th June 2019
 Chief of Equipment Control : 西澤 健一

Participant data
 Issued to : 清部政司
 会員ID : 15001303
 所属 : 東京都

Clothing	Make	Colour	Serial
Jacket 1	Thune	白と黒	4
Trousers 1	Thune	白と黒	9

Firearms	Manufacturer	Type	Serial no.
Rifle 1	Felnerwerkbau	10m Air Rifle	E3183
Rifle 2	Anschutz	50m Rifle	244504

THIS CERTIFICATE IS VALID ONLY FOR DOMESTIC COMPETITIONS WITHIN JAPAN.
 THE HOLDER IS NOT EXEMPTED FROM EQUIPMENT CONTROL AT OTHER ISSF COMPETITIONS.
 It is the shooter's responsibility to ensure that all clothing and equipment used
 complies with current ISSF Rules.
 Follow up controls may be conducted for clothing and / or equipment.

Date of printing: 20190610 01 Issuing Officer: 西澤 健一
 Signature:

2020年度の競技会に関して

ライフル競技のうち**G1大会**については**事前検査を実施**する。ただしワンタイムオンリー検査を受けて、タグがついている選手については事前検査を免除する。

免除に該当する選手については、競技会で射座入り後に、射場役員がワンタイムオンリー検査済証明書と、タグならびに登録銃のシリアルナンバーを照合して確認する。検査済証明書を提示できない選手は、事前検査は免除とならない。

将来に向けて

日本記録認定対象試合のG3+の競技会までは、事前検査を実施する方向でワンタイムオンリー検査の普及に努める。このため、ワンタイムオンリー検査を実施できる公認審判員をブロック毎に配置できるようワンタイムオンリー検査講習会を2020年度に開催する予定。（別途案内します）

ルールブックの修正について

ルールブックの修正

第2巻

P312

7.6.1.3 立射（スタンディング）

a) 選手は射座の床面または敷物の上に両足をつけ、人工的または他の支えなしに立たなければならない。



英文

a) The athlete must stand free, without any artificial or other support, with both feet on the firing point surface or on **the shooting mat**

立射の際に、射場の射撃マットの上に立って構えても良いが、持ち込みの敷物はダメ（私物のマットも禁止 6.4.7.2 b）

→ **敷物を射撃マット**と修正

ビームライフルの国内規定修正

6.11.2-2.1 選手が準備時間中に記録装置に反応する不注意発射を行った場合、1回目には警告が発せられなければならない。それ以降の違反については、1回につき2点のペナルティを本射第1シリーズに課せられる。



準備及び試射時間の開始前に変更

6.11.2-2.3 選手がファイナル準備時間中に記録装置に反応する不注意発射を行った場合、警告が発せられなければならない。ただし度重なる故意発射には6.11.2-2.2が適用される。



銃口カバーがあり不注意発射の恐れがないので削除する

講習会当日質問のあった内容への回答

質問内容

- ・ GTRの6.11.1.1のi)には、安全上の問題があれば失格、安全上の問題がなければ本射1発目を0点とする
- ・ 国内規定6.11.2-2.1の不注意発射では1回目は注意、2回目以降は本射第一シリーズに2点のペナルティとあり、エアライフルとビームライフルでペナルティ内容が違うのは何故か？

回答

- ・ ビームライフルはスイッチがONになっていれば、ボルトオープンすると撃発可能な状態になりトリガーを引けば光線が発射される。セフティフラッグが入れられない構造で、かつ撃発可能かどうか分からない。トリガーを引くと撃発してしまう可能性がある。
- ・ 号令前の不注意発射にA R・S B以上に気を付けなければならないという負担を射撃初心者に負わせるべきでないとの考えからエアライフルとは違うペナルティにした。

国内適用規定6.11.2-2.1は、抜弾されているか判らない・確かめようがない銃を使用しなければならないB R種目の為の特別規則と考えていただくのが一番良いと思います。

審判員の評価について

目的 競技会での公認審判員の仕事ぶりを評価し、今後の役員としての起用ならびに再教育の判断材料とする。

実施内容

- ・ 対象競技会 日本記録が認定される**G3+以上の競技会**で実施
- ・ 対象審判員 TDを除いた、配置が必要な審判員全員
- ・ 評価者 TD（テクニカルデレゲート）が実施する
国体においては、各射場に**競技副委員長**が配置されているので競技副委員長が評価する
注：当日国体委員長より、主任ジュリーではなく副委員長との指摘があったので訂正します。
- ・ 評価内容 別紙報告用紙の項目内容を評価する
- ・ 報告 競技会報告書と共に日ラに提出する

報告用紙



NRAJ 競技会後
審判員評価報告書



テクニカルデレゲートは、この報告書を完成させ、競技会終了後できるだけ早く NRAJ 競技運営委員会審判部会に署名された報告書を提供するよう定められている。この報告書は将来の審判員の指定や基準の改善に役立てる。

見出しの下の記事部分が不十分な場合は、必要に応じて追加のページを添付すること。

1. 競技会名

名称	場所	日付

2. テクニカルデレゲート

氏 名

3. 審判員の名前と構成

氏 名	本部	地方	機能(割り当てられた審判業務等。)

4. 個々の審判員のパフォーマンス

個々の審判員に関する報告:経験レベル/コミュニケーションスキル/貢献と有効性/外観/将来のための推薦 (今後審判起用を推薦するか否か)

氏 名	パフォーマンス

5.競技会と審判員の配置に関するコメント
競技会の全般的な運営状況/特に懸念されたこと/良い改善または改善を必要とすること

6.注目すべき事故（インシデント）および/または抗議/失格
簡単な説明のみ。より詳細な説明が必要な場合は、個別のレポートを添付。

a)

b)

c)

d)

7.懸念されること、興味深いこと
根本的な傾向 / 選手の行動/ルール解釈または応用上の混乱 /
ルールブックの間違い / 改善提案

8.主管団体の技術員/スタッフの配置について
学ぶべき教訓 / 改善手順 / 射場長のパフォーマンス

9.その他の備考
この会場での今後の競技会に関する射場の変更または改善に関する一般的/推奨事項

10.添付ファイルの一覧 (添付がある場合)

a)

b)

c)

d)

TDサイン

日付

用紙は協会HPにアップします

競技会報告書について（再確認）

競技会報告に必要な書類

前提：G3、G4の競技会で段級受験のない場合は報告不要です。

1. 競技会実施報告書（様式1）
2. 日本記録・国内最高記録報告書（様式2）
G3＋大会以上 記録がなければ提出不要
3. 段級受験報告書（様式3）
4. 競技運営状況報告（様式4）→**紙標的で実施の場合に写真添付**
5. 審判員配置状況
6. TD意見書



射場公認証、電子標的公認証などの写真は不要です

協会HPの「各種手続き」のところに「書式ダウンロード」があり、そこに「競技会実施報告書（様式1～4・TD意見書）」「審判員配置状況」があります。これを使ってください。

ルールの理解について クイズ

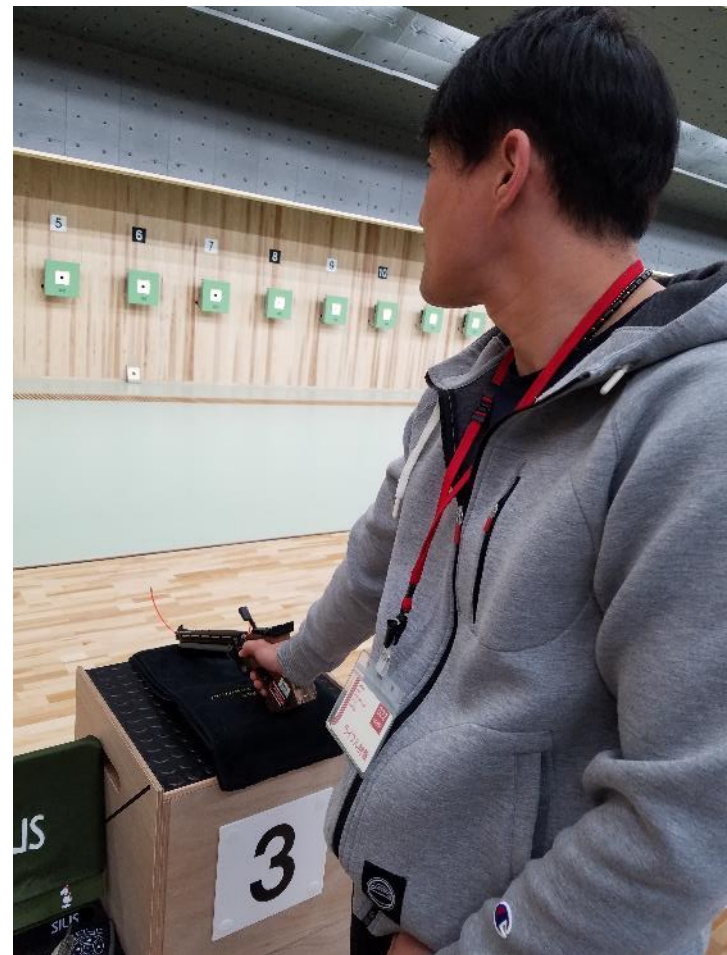
問題

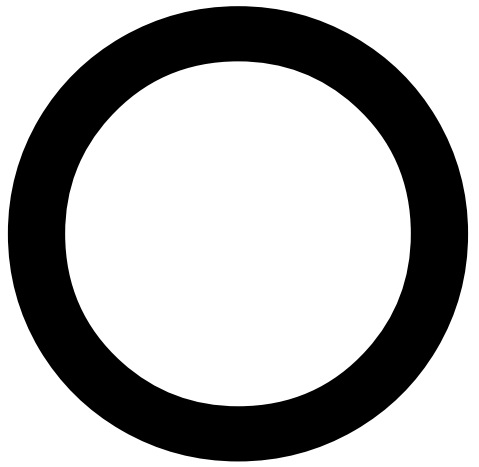


射撃机の上にメガネケース（箱）を置いて
ピストルサポートスタンドとして使っている

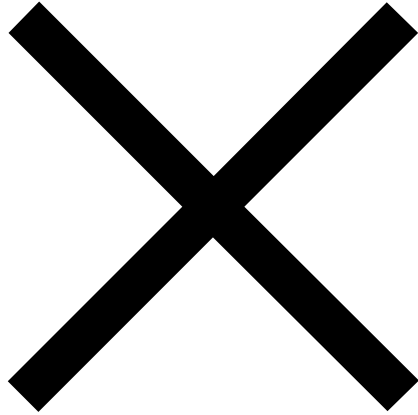


これは○か×か？





OR



回答は？

1.本選では○だがファイナルは×

2.本選・ファイナルともに×

3.本選・ファイナルともに○

前提：高さは箱を入れて1.00m以内とする

該当するルール

8.6.2 ピistol運搬用ボックス

選手は射場にピistolや用具を運び込むために、ピistol運搬用ボックスを用いることができる。**ファイナルにおいては競技中はFOPにピistol運搬用ボックスや用具箱を残しておくことはできない。**

8.6.3 ピistolサポートスタンド

選手は、撃発と撃発との間にピistolを置くために、ピistolサポートスタンドや箱を台やテーブルの上に置くことができる。サポートスタンドや箱を含めた台やテーブル全体の高さは1.00mを超えることはできない。（中略）

予選または本選では、ピistol運搬用ボックスをピistolサポートスタンドとして使用することはできるが、（略）

ファイナルではピistol運搬用ボックスをピistolサポートスタンドとして使用することはできない。

ピストル運搬ボックス



1.本選では○だがフ ァイナルは ×

2.本選 ・ フ ァイナルともに ×

3.本選 ・ フ ァイナルともに ○

前提：高さは箱を入れて1.00m以内とする

正解は

3.本選・ファイナルともに○

藤井さんのメール

ファイナルにおいてピストルを置く台としてメガネケースの使用はOKかについて、確認いたしました。
今ミュンヘンで一緒にいるピストル委員会委員長のスーザンさんに確認し、OKとの回答を得ました。

8.6.2 ピistol運搬用ボックス

選手は射場にピistolや用具を運び込むために、ピistol運搬用ボックスを用いることができる。ファイナルにおいては競技中はFOPにピistol運搬用ボックスや用具箱を残しておくことはできない。



英文ルールブック

8.6.2 During Finals, pistol transport boxes or equipment bags must not remain on the FOP.

ファイナルではFOPにピistol運搬用ボックスや用具バッグを残しておくことはできない。→協会HPのルールブックを修正します

レーザー墨出し器のご紹介

レーザー墨出し器について

競技規則集第2巻134ページ

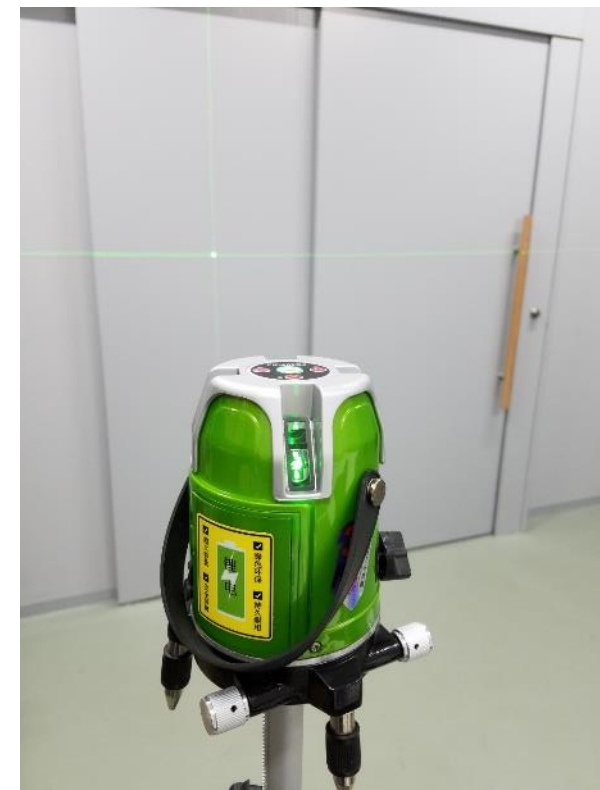
6.4.6.1 標的中心の高さ

標的群または射場内のすべての標的の中心の高さは
同じでなければならない ($\pm 1 \text{ cm}$)

上記を確認するために、レーザー墨出し器を
購入しました。

加盟団体にレンタルいたします。

レンタル方法は、協会HPに掲示いたします。



競技規則集第1巻

117ページ 公認審判員規程

第12条 加盟団体およびその集合体（ブロック）は、前条による講習会終了後、随時その受講者が講師となってい、その状況を本部に文書をもって報告する。



ブロック講習会などで要請があれば、競技運営委員会メンバーが講師としてお伺いいたします。

スケジュールなどにつきましては、別途ご相談ください。

協会eラーニングでも視聴できるように準備いたします。こちらもご活用ください。

質疑応答

現場で分からないことがあった場合等、以下に質問メールをお送りください。
お調べしてお答えします。

溝部メールアドレス m.mizobe226@gmail.com